

5 本時の計画

(1) ねらい

仲間の演技を観察し、よい動きや改善のポイントを指摘することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 学習過程 (本時 7 / 8)

過程	思考の流れと学習活動の流れ	時間	・指導の手立て ◇ICTの活用 評価
導入	1 パワーアップタイムに取り組む。 (補強運動、感覚づくり)	5	・けが防止と跳び箱運動に関連する感覚を磨くために、丁寧にしっかりと取り組むことを確認する。
展開	2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【めあて】 仲間の技のよい動きや、改善についてのポイントを見つけて伝え合おう。 </div> 3 「ドリルタイム①」に取り組む。 (磨きたい技の練習)	3	◇本時のねらいへ方向付けするために、前時の振り返りを電子黒板に投影して紹介する。 ・見通しをもって学習を進めていけるように、本時の流れを確認する。
展開	4 「アドバイスタイム」に取り組む。 演技をタブレットで撮影し、お互いの動きをチェックして伝え合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 45%;"> 強く踏み切って、腰を高く上げることを意識すれば、もっとスムーズに回れると思うよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 45%;"> もう少し前の方に手をつけば、跳び越せると思うよ。線より前に着くにすればいいね。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 45%;"> 着手前に脚を開いてしまっているよ。着手後に開脚するようにすれば、もっときれいになるね。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 45%;"> 着膝を曲げて柔らかく着地すれば、ピタッと止まってくれいになると思うよ。 </div> </div>	13	◇アドバイスを端的に記入できるように技の4つの局面とそれぞれのポイントをシート上で提示し、動画と見比べながら演技をチェックできるようにする。 ◇グループのメンバーが焦点化して見ることができるように、チェックする局面を一つか二つにしぼって伝えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 仲間の技について、視点に基づいて見つけたよい動きや改善のポイントを動画を根拠に書いたり話したりしている。(観察、シート) </div>
整理	5 「ドリルタイム②」に取り組む。 (アドバイスを意識しての練習)	12	◇アドバイスを受けたことを意識しながら動きを高めていけるよう、適宜タブレットを活用して動きを撮影・確認しながら取り組むようにする。
	6 技の出来映えを確かめる。	5	◇アドバイスを基に練習したことが技能の高まりにつながっていることを実感できるように、動画比較機能を活用し、電子黒板に提示する。
	7 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「友達の技を動画とシートで見比べながらチェックして、アドバイスすることができた。〇〇さんにアドバイスしてもらったポイントを意識して練習したら、スムーズに跳べるようになった。」 </div>	5	・本時の学習活動を通して考えたこと、次時に生かしたいことを確認できるよう、振り返りの視点を提示する。

(3) 授業研究の視点

- ・秋田の探究型授業を自立的に進めるための手立ては適切であったか。
- ・授業の各段階におけるICTの活用は効果的であったか。